

KSKP
No. 5



パンジ
だより
清水一男

発行 1994年1月

編集 クリエイティブハウス
“パンジー”

パンジー報告

皆様明けましておめでとうございます。旧年中は、様々な方からの、支援にさええられ、無事ここまでこれました。本年も引き続き、ご支援の程宜しく願いたします。

さて、初年度も後二カ月余りを残すばかりとなったパンジーでは、第二年度の方針や行事、そして予算や人事移動など山積の問題を決めるべく、長い会議が続いています。そんな中でふと思ひ起こされるのが、去年あった色々な出来事や失敗した時の事……。ここでもその中から少し取り上げることにしてしましよう。

春：通所生とそれをとりまく人々の張りつめた緊張感の中、オープンハウスをはじめとする、実に多くの来訪者をむかえました。そんな折りに見られた緊張表現のあの顔、この顔、今も晴姿として残っています。

夏：ピープルファースト、カナダ大会へ作業所時代からの仲間四人が参加するのを見送った当初、パンジーの中に、ぽかりと大きな穴があいたように感じたのもつかの間、新人達の「われ、ここに存り」主張が、その穴をアツという間にうめつくしました。そして、忘れられないのは、グリーンピア三木への旅行、大型バスをチャーターしての大移動。学校時代には、持病のせいで、泊まりがけの旅行が許されなかったA君も元気に参加。プール遊びでは、他の人が、帰り支度を始めてもなお、閑散としたプールの一隅にそっとたたずみ続けていた彼の後ろ姿が印象に残っています

秋：冬：実りの秋。春にまかれた種は、どんなふう実り、心豊かにさせてくれたのでしょうか。友情を实らせた人、恋心を実らせた人、自発的に何かをたくらみそれをなんなくやりとげてしまった人、等々。みんな集まっての忘年会は、即、カラオケ大会となり、会場は、熱気と笑いに包まれたのでした。(ひろ)

各部門より

〈パン屋の窓からこんにちわ〉

新春から新しい風がここパンジーの中に通ったおかげで、とても気分のいいスタートをきることができました。今年になって初めて迎えたかわいいお客さんは、昨年一度パンをつくりに来てきた保育園児25人。ワイワイとパン屋の中を探検した後、第一次発酵したパン生地をやりたいようにちぎって丸め、好きなように形をつくっていく。見ていて本当に気持ちいい。ふと見ると軽作業部門からN君にぎやかさにつられてやってきており、彼の車椅子の後ろにはちっちゃな子ども達が4、5人乗っている。またその横にいるKさんの電動車椅子にも3人乗っていた。みんなニコニコ、子どもが好きみたいである。子ども達の自由でユニークな元気パワーをこの空間にもらったので、今年も楽しくパンをつくっていけそうです。

(につしちゃん)

<軽作業部門より . . . >

明けましておめでとうございます。1994年を皆さんはどの様に迎えられたでしょうか。パンジー軽作業部門は、世の中の不況なんてなんのその、にぎやかな新年を迎えました。

新年になりパンジー第一日目。私は久しぶりの早起きのためなんとなくだるいまま仕事に来ました。目を覚まさないとなあ、と思っていたらパンジーバスが到着。みんなの元気な声を聞き、顔を見たらいつきに目は覚めて、体のだるいのもふっ飛んでいってしまいました。目覚し時計よりも効果的なものでした。作業の方も、作業室に入るとすぐに棚においてある仕事を見つけ「今日はこれするの?」と聞いてくるほどやる気のある人もいました。私はただただみんなの後についていた状態だったように思います。

そんな実に頼もしいメンバーと、今年一年楽しくやっていきたいと思えます。どうかよろしくお願ひいたします。

(はま)

“はじめの一歩”



厨房より

年の始めのためしとて・・・パンジーがオープンして初めてのお正月を迎えました。昨春はかわいすみれの花が一面に咲いていた花壇に、今は通所者の成長を象徴する様にたくましく伸びた木々が、ユニークな建物をふちどっています。一年近くたち厨房の仕事にもだんだん慣れるにつれて、メニューがマンネリ化するのを防ぐ意味もあり、スタッフが順番に献立を作る事にしました。メンバーの体重が平均5～6kg増えてしまい成人病につながるカロリー対策を真剣に考えなくてはと思っています。又カウンターの向こうで展開される、様々なハプニングの対策に試行錯誤のスタッフミーティングを重ねる一年でもありました。私自身も“二足のわらじ”（パンジー通所者の親とパンジー職員）の重さにたえがたく落ち込んでいた日々「今日のごはんおいしかった。また、あしたもネ」のメンバーの明るい笑顔と同僚の励ましに勇気づけられのりこえる事が出来た時、大きな喜びとちょっぴりゆたかな気持ちになった自分を見つけることが出来ました。人間誰もが持っている“やさしさ”という輪が人と人を結びつけたとき、そこにたしかな福祉がある・・・と、最近考えています。今年も又、新しい自分を発見するためふみだします。“はじめの一歩”を。

(河野)

わたしたちのグループホーム

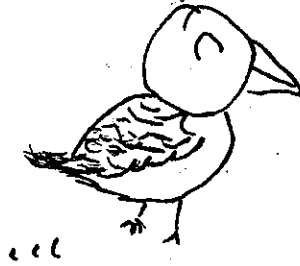


ぐるーぶほーむの人達でカラオケとかおまつりとか行くときがいちばん楽しいです。野畑くんとか西尾くんとか一男くんとか行くのがとても楽しみです。

ぐるーぶほーむのげんかんがすこし高いので、部屋に上がる時、もう少し低いほうがつかいやすいので、そうしてほしいです。部屋がひろくだいどころがつかいやすくなっています。にかいにはわたしと西尾くん。かいだんにはてすりがついています。おふろにもてすりがついています。だけどかいだんみたいにてすりがながくない。ごはんがないときはかいものにとったりしていると、ともだちによくあう。

(麻蓬みどり)

私とパンジー



三崎 令子



なぜかカナダのピープルファースト大会に参加することになって、初めてみんなといっしょの旅行を経験しました。初めは何をどうすれば良いのかわからず、でも一日が過ぎていくにつれて声が大きくなっていき、毎日のスケジュールをクリアしていくのですが、毎日がとてもハードでした。日本と外国の介護に対する取り組み方が100%違うこと。日本では身内の方はもちろんのこと、ボランティアの人達の人数が不足になっていて、外出はもちろん自立することのむずかしさ。それに比べて外国ではボランティアの人達の多いこと。それもそのはず、教育の一部として組み込まれていて、みんなが参加していること、特に同年代の人達が介護に入っていることです。外国では、障害者の人が自立して前向きに進みたいと希望する人には、日本のように壁は多くないように思います。人の件はもちろん、家の問題で多くの人達の理解があると思います。仕事の面ではいろいろあるみたいですが、間口はひらけていると思います。障害者の人達がとても明るくものおじしなくて堂々としていること、いつも前向きであることなどです。私が同行してビックリさせられたことは、障害者の親子パワーというものに驚き勉強させて頂きましたし、又みんなの食欲、買い物に対してのパワーもすごかったことです。でも日本に足をおろしたとき、何もなくてよかったと思っホッとさせてもらいました。

日本に帰ってから自分に何ができるかと考えた時に、今まで月に一回食事の介護に入っていたのもままならなくなっている時だけに、何がと考えた時、宅配といって家のポストにチラシを入れていく仕事があるのに気がつきお願いしているのですが、その仕事は少なくなって、内職を紹介しても工程が多くてとても大変とのことですが、これからもなが〜いつきあいが出来ればいいなあ〜と思っています。これからもヨロシク！

がくしゅうコーナー

「障害」って、ナア～んだ (1) by 牧口いちじ

これから数回、このコーナーを担当する牧口いちじです。どうぞよろしく。ボクは満1歳のころ「ポリオ」という病気にかかり、右足が動きません。左足と右手にも少し動きにくいところがあります。小さな頃は地面を這って近所の友だちと遊んでいました。10歳の時から松葉づえで、やっと1人で学校に通えるようになりました(戦争で3年おくれて)。それから56歳の今まで2本の松葉づえで歩いてきたわけです。

松葉づえで街を歩いていると「障害者」と言われます。長い間、「障害者」と言われ続け、自分でも仲間たちと障害者解放運動をやっているのですが、そのボクが「障害者って、どんな人のこと？」と尋ねられたら、うまく答えられない気がします。第一「障害」って何なのか、よくわからないのです。

例えば、松葉づえ姿のボクは世間から「歩けない人」「足の悪い人」「足の不自由な人」と、よく言われるのですが、これらの表現は考えてみると3つともおかしいと思います。

まず「歩けない」と言うけれど、ボクは松葉づえで歩いています。これがボクの歩き方です。それぞれにいろんな歩き方があるはず。

次に「足の悪い」と言うけれど、これにはケツサクな話があって、ある時、小学生から「おっちゃん、足悪いん？」と尋ねられて、「この足が何か悪いことしたか」と言ってやったら、その子はビックリして、じいっとボクの右足を見つめて「動かへんかったら悪いこともでけへんなア」と、つぶやきました。

それから「足が不自由」と言うけれど、本当は「移動が不自由」ということです。そう考えたら、移動の手段ならいろいろあります。松葉づえもそうだし、車いす、ベビーカー、それに電車、バス、タクシーなど。ボクがまだ松葉づえが使えなかった頃、小学校へはおふくろがおぶって通学してくれたし、時どきおやじが肩車して甲子園に連れて行ってくれました。で、ボクは根っからの阪神ファン。この、おんぶや肩車も移動手段の1つです。

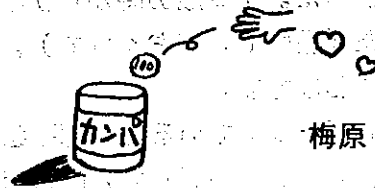
世間から「〇〇が不自由」と言われる人ほど、じつはいろんな方法をくふうして生きています。くふうしないと生きていけないからです。いろんな歩き方やいろんな生き方を身につけている人が「〇〇が不自由な人」と呼ばれ、あまり知らない人を「自由な人」と思うなんて……ますます「『障害』って何だろう」と頭をかかえてしまいます。(つづく)

忘年会について

荒井 俊行

朝、芳野さんと林さんにみんなで話を聞いてから、ガイドヘルパーの人と出発しました。メリークリスマスの会も楽しかった。僕は喜びました。喜ぶことをしてクリスマスも大好きな楽しい一日でした。母親も行きたいなあといっていました。

はじめてのカンパ活動



梅原 義教

パンジーから車で荒本駅へ行き、キップを買って電車に乗りました。鶴橋駅で乗りかえて天王寺に着きました。約一時間かかりました。

天王寺の地下街でカンパをしました。とてもたくさんの人が通っていたので、僕はびっくりしました。

お昼ごはんはとなりのキンテツで、おうどんとかたこやきとかを食べました。

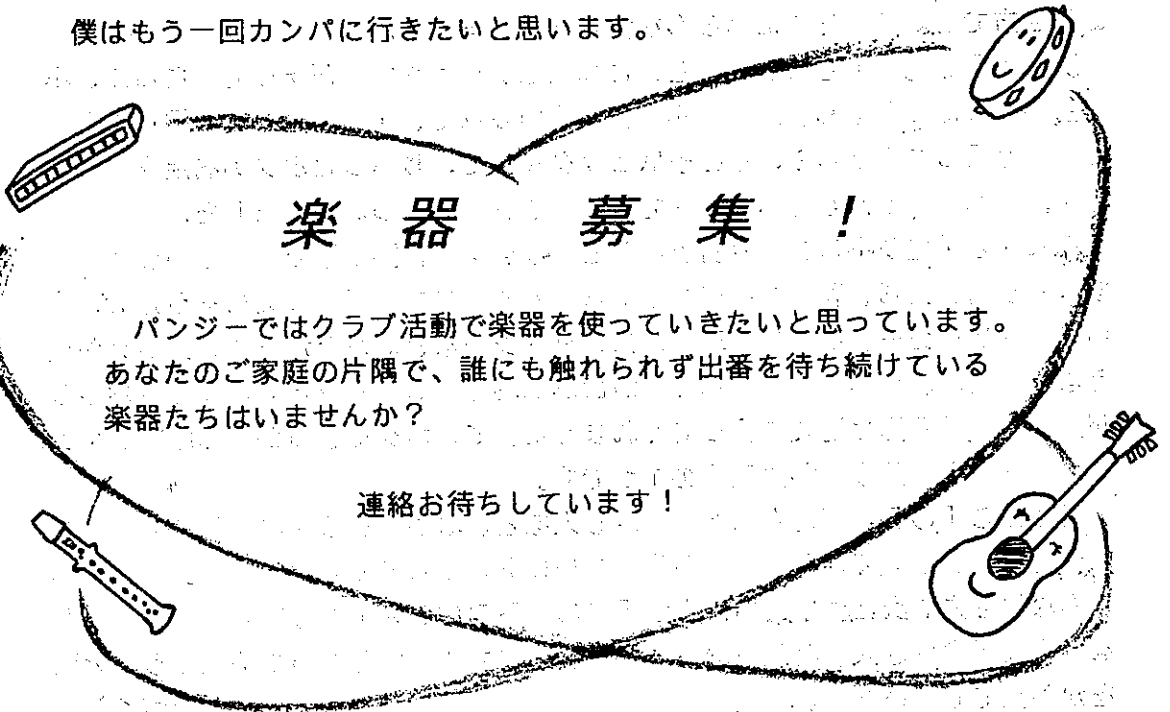
カンパのお金もとてもたくさん集まりました。

僕はもう一回カンパに行きたいと思います。

楽器募集!

パンジーではクラブ活動で楽器を使っていきたいと思っています。
あなたのご家庭の片隅で、誰にも触れられず出番を待ち続けている
楽器たちはいませんか?

連絡お待ちしております!



シリーズ

“ボクの横にいて”

第1回 人間としての尊厳

—知的障害者の処遇にあたっては敬意と理解をもって
臨まなければならない—

講師 二文字 理明氏

日時 2月10日(木) PM6時30分

場所 クリエイティブハウス「パンジー」

「僕の前には、立たないでほしい。なぜなら、僕はあなたに従ってしまう。僕を前には立たせないでほしい。なぜなら、僕はいつもリーダーにさせられて、困ってしまう。できれば僕の横にいて、適切なアドバイスをしてほしい。」

第3回ピープルファースト国際会議で当事者より提起のあった言葉です。この提起をベースとして、知的障害者といわれる人達の人権をどう捉えるのか。また、私達、知的障害を持たない者は、当事者の自己決定をどの部分で支え、共に共感する事ができるのかを、何回かのシリーズで探っていきたいと思います。

まず第1回は、スウェーデンにながらく滞在しておられた、二文字理明さんのお話を聴くことから始めたいと思います。なお、二文字さんは、最近「人間としての尊厳」を訳しておられます。その中で、訳者前がきとして、「本書は、その知的障害者の施設等での処遇の在り方に焦点を当てて整理したものである。知的障害者の処遇にあたり基調となるもの、それは彼らを人間として、尊厳の対象としてみるということである。そして、その精神にそって、たとえば自己決定の原則、守秘義務の遵守、「障害者・非障害者」や「男・女」や「職員・入居者」といった諸関係における在り方を明確に示している。ハード面での整備と共に、ソフトとしての処遇原則を指針化した本書は日本での知的障害者をはじめとする、障害者全般の地位向上に寄与するところがあるものと確信する。」と、書かれておられます。

今回は、本書を訳されて感じたことを中心に、スウェーデンにおける知的障害者の人権について、お話をして頂きたいと思っています。

ガイドヘルパー物語

パンジーとの出会いは、灰谷健次郎さんの映画「うさぎのめ」の上映会でした。自立の家「つばさ」の存在は、何となく知っていました。けれど、きっかけがなくて、前を素通りしていました。だから、パンジーから、ガイドヘルパーの依頼がきた時は、チャンスかなと思うと同時に、できるかなあと思いながら参加しました。

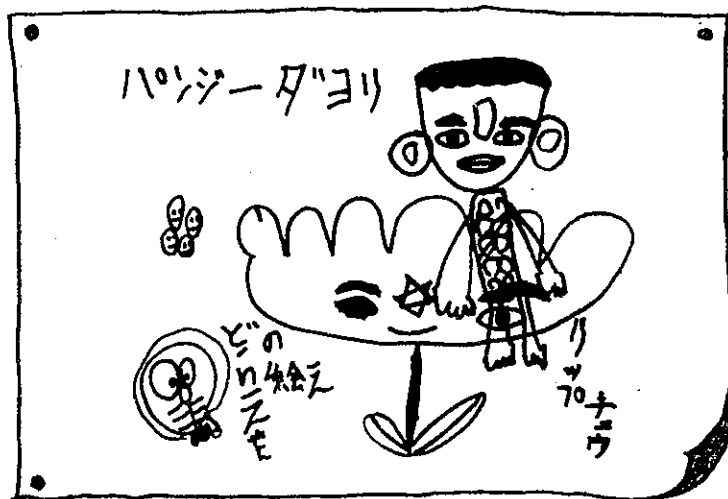
パンジーのみんなといると、とてもうれしかったり、逆にすごく緊張したりします。でも、みんなといる時の自分が好きです。とても自然になれます。

みんなと接していて、あらためて思います。障害者（この言葉はキライです）も健常者も、同じ、目にみえない心をもった人間で変わらないと。

私は、パンジーへ自分が必要とされる場を求めてきました。パンジーのみんなが、私を必要としてくれて、みんなが幸せになる手伝いができたらという、おもいで。

だから、パンジーのみんなには、自分はなににもできない、必要とされないとは、決して思っほしくありません。私は、パンジーのみんなに、いろんなことを教わります。言葉の重さ、大切さ、思いやりや、いたわり。

これからも、パンジーのみんなと、楽しくやっていきたいです。（月岡聡子）



レクリエーションに行って

平石 満彦

れくれーしよんかすがたいしやにいきましたじゆにじはんぐらいにきんてつならせんにのりました。ひるごろになりきさてんでびらふをたべ、えきまえでほんややおもちゃやに入り吉竹君もきて案内してくれました。びらふをさんにんぐらいでたべてそーすやまほどかけました。そしてかえりました。きんてついきりまでおくってもらい、いしきりさん道りをおいてばすでかえりました。よじはんにいえにつきました。いえについたらにかいにあがりべつとでよこになりました。といれはにかいいきました。にかいともてをあらわずにいるとへるばーさんがあらえといわれました。

えびすじんじやのちゆうけいげんばをみていました。だいえいぢのいちにいきました。かすがたしやはさんどうがながいのでつかれました。いくたさんとみたさんがでんしやのなかでほいくしよをやりました。あやめいけゆうえんちのちけつとをもらいました。よるは、てれびおおさかのばんぐみでみそらひばりのうたやなつめろをみてました。

あなたもガイドヘルパー活動をやってみませんか!

パンジーの仲間は、自立生活部門のレクリエーション活動を利用することにより、余暇を有意義に過ごし、また、閉ざされがちな人間関係を広げる機会を得ることができています。その人の生涯で、一緒に時を過ごす人のほとんどが、親、兄弟、親類縁者と学校、施設の友人、職員だけだったなんていいことがあるはずは、ありません。「うん、そや、そのとうり!」と思わず合づちをうってしまったあなた! 下記の予定表とご自分の予定を充分検討の上、電話をしてください。

予 定

2月 5日(土) ……はいから村
3月 5日(土) ……スポーツ観戦
7月29日(金) ……夏の旅行
～ 30日(土) 神戸しあわせの村

4月からの予定は
次号でお知らせし
ます。

書き損じハガキ、切手を待っています!

御家庭や会社などで、年賀状の残り、書き損じたままのハガキ、貼ったままでスタンプを押していない切手など眠っていませんか?

自立生活部門ではこれらを集めて活動資金に充てたいと思っています。引き出しの片隅から、御協力をお願いします。

御協力ありがとうございます。

※カンパ 寄付をいただいた方です※ (敬称を略させていただきます。)

境下 智里	橋本 幸子	立村 久利子	大場 康治
徳田 輝美	飯田 芳春	M. S.	木村 多加緒
竹川 節子	平石 慶子	神田 千代子	布施解放研
田口 昭男	原 幸子	泉原 寛康	浅田 多美子
柳 久子	錦見 はま	岡本 伶子	横山 増美
青山 純代	長沢 みどり	田中 澄子	塩田 隆
荒井 章	櫻本 寿	富永 満美	久保田 卓

※後援会員になっていただいた方です※

徳田 輝美	植西 晃	月岡 聡子	月岡 大介
広川 典子	泉原 寛康	嘉悦 登	安積 遊歩

郵便事情などで、お名前の漏れていらっしゃる方がありましたら、申し訳ありませんが、パンジーまで御連絡下さい。

パンジーでは後援会員を募集しています。

賛助会員	1口	1ヵ月	500円
本会員	1口	1ヵ月	1,000円
特別会員	1口	1ヵ月	5,000円
郵便振替番号 大阪5-300551			
クリエイティブハウス「パンジー」			

編集人	東大阪市東鴻池町2-4-8	発行人	関西障害者定期刊行物協会
クリエイティブハウス	TEL:0729-63-8818		大阪市城東区東中浜2-10-1-3
“パンジー”	FAX:0729-63-8825		緑橋グリーンハウスF・7F企画気付